



# 漁協通信

第19号

H26. 11. 26 発行



(携帯サイト)

大井川(非)漁業協同組合

島田市中溝4丁目2-5

TEL (0547) 37-3048

テレホンサービス(釣り情報)

(0547) 32-9240

## 県鮎友釣り競技選手権大会、2連覇！



6月29日(気田川、前島橋下流)

2014.06.29

第61回静岡県大会は晴天の中、気田川(天竜区春野町宮川地先、平木大橋～熊切川合流点)を会場に21漁協、110名で開催されました。

今回は、昨年の一般友釣り大会で個人優勝の鈴木伊佐夫さん(川根地区)が選手に加わりました。団体優勝2連覇に向け下見から本戦まで選手・引率スタッフの総力を挙げて臨み、白幡選手が個人優勝・大物賞を獲得して三賞すべてを大井川漁協が独占するという素晴らしい成績を残すことができました。

なお、今回は東部ブロックでの開催が予定されています。

<団体の部> 総重量戦(g)

順位	漁協名	重量	尾数
1	大井川	2,872	74
2	興津川	2,457	68
3	気田川A	2,313	62
4	狩野川	1,976	60
5	太田川	1,929	46
6	新大井川	1,907	46

<個人の部>

順位	氏名(年齢)	重量	尾数
1	白幡光明(42)	929	21
2	堀池広起(32)	846	23
3	小野田博(63)	794	17
4	竹内錦一(51)	788	20
5	神麻正己(60)	707	17
6	鍬竹大介(34)	705	19
7	森下 悟(54)	679	15
8	塚本俊之(49)	620	19
9	高柳宏人(40)	609	15
10	高村 亨(70)	577	13

<大物賞> 白幡光明 95g



8位 T.TSUKAMOTO



14位 K.SAITO



22位 I.SUZUKI



33位 K.TSUSHIMA



個人優勝 M.SHIRAHATA

2014.06.29

県内外の友釣り大会でライバルとして競い合う塚本選手・白幡選手を津島・鈴木・齋藤の3選手が好釣果で援護するというチームワークの団体優勝でした。



## 地区・関係会社対抗大会



7月19日（土）、各地区や関係会社の代表選手が団体・個人で競い合う標記大会が伊久美川で開催されました。

曇り空の中で水温も21℃とやや低く、表彰式では土砂降りの雨に見舞われ、進行を中断するアクシデ

ントもありました。この大会の1尾あたりの平均重量は39.2g、平均年齢は60才でした。

＜地区の部＞ 優勝：島田（908g、23尾）2位：川根（816g、22尾）3位：金谷（809g、20尾）

＜関係会社の部＞ 優勝：特種東海B（1,015g、27尾）、2位：特種東海A（796g、19尾）3位：中部電力（609g、16尾）

＜個人の部＞ 優勝：羽入和雄（443g、10尾）2位：上田光雄（303g、8尾）3位：平口敏幸（253g、6尾）4位：榊原卯一（242g、6尾）5位：大一中一馬（242g、6尾）6位：兵庫正弘（242g、6尾）7位：永橋久志、8位：宮脇政一、9位：望月保宏、10位：西畑和也 ※同重量の時は尾数、高年齢の順による。

## 伊久美川魚道の改善を要請

10月17日、当組合の長年の課題である伊久美川魚道の改善に向け、伊久美川を横断するサイフォンの管理者である大井川用水管理委員会、あわせて施設所有権を有している農林水産省、関東農政局大井川用水農業水利事業所にも要請しました。

この先交渉の困難が予想されますが、第一歩を踏み出しました。皆さんの応援をお願いいたします。

### 鮎の発眼卵放流を実施します。

（時期）12月11日（予定）

（場所）谷口橋上流

（数量）約300万粒（マット30枚）

（設置期間）7～10日

期間中はマットを揺すり、付着物を除去します。



H24.11月 発眼卵放流（谷口橋上流）

## 平成26年度 事業活動あれこれ



第16回大井川川まつり

↑たくさんの子供たちが大井川の生き物と触れ合いました。

↓今年は春～秋までたくさんの川鵜が確認されています。



春、秋 カワウ追払いパトロール

## 河川工事が行われています。

10月1日より河川工事の施工時期となりました。組合でも産卵期・遡上期への影響が少なくなるよう、時期や工法について工事業者と調整を行っています。

### ー実施されている工事ー

#### <国交省>

島田市牛尾、赤松、新大井川橋、向島、宝来町、旭町、細島（サイホン撤去）、焼津市相川

#### <県> 川口橋、大代川橋

#### <関東農政局> 島田市身成（本流）

## 鮎の産卵が始まっています

10月21日午後 大井川、はばたき橋下流（水温21度）



かつては秋になると盛んに見られた鮎の産卵風景。

数匹の鮎が水面に跳ね上がるのを合図に次々と水しぶきが広がっていく様子を、数年ぶりに確認することができました。

（産卵の動画をホームページでも見ることができます。）

## 機関紙「ぜんない」第33号から

# 愛しきアユ

第7回



富山県農林水産総合  
技術センター水産研究所  
内水面課長

田子康彦さんの記事より

全国内水面漁連が発行する機関誌「ぜんない」の一部をピックアップしてご紹介します。

## ◇アユ仔魚の大名行列が続く秋の夜

十月にもなると日の暮れるのもすっかりと早くなり、川では釣り人の姿もめっきり少なくなります。

川原ではススキの穂が寂しげに風に揺られ、産卵を終えた落ちアユが力なく川底で横たわっている姿を見るにつけ、哀愁がいつそう引き立てられます。あのアユの釣り人たちが賑わった夏の川がまるで夢であったかのように、無常を実感する季節でもあります。

しかし、生を謳歌した親アユたちの死がある一方で、新しい生命も日々誕生しています。アユの子供たち（仔魚）が生まれるのは夕刻。日暮れ時の明から暗への変化を刺激に、川底の砂利の中で孵化します。そして、数時間の内に砂利から出て水面に向かって浮上し、一目散に海へと向かいます。私が行った庄川の調査では、最盛期のその数は一晩に数千万尾。川の流れは複雑で滞筋（みおすじ）がいくつもできるので、アユは一様に分散するのではなく、おそらく滞筋に沿ってくだっていると思われま。もし川の中を降海していくアユの仔魚たちに光を当てることができれば、そこには目くらむような数の仔魚たちの行列が展開され

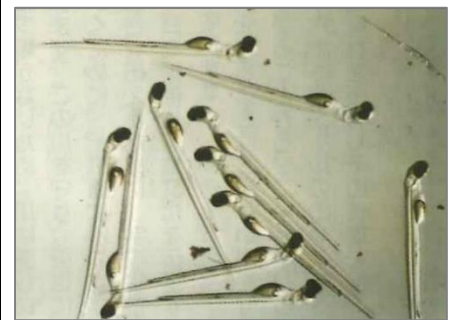
ていることでしょう。期間を通してのアユ仔魚の降海数は年によって大きく異なり、数億から70億尾と推定されています。

ところで、庄川やその他多くの河川では、仔魚の降海量と翌年の稚魚の遡上量との間には明瞭な相関関係は認められていません。

例えば、平成16年秋には台風に伴う豪雨で庄川は堤防が決壊せんばかりに増水し、アユ仔魚の降海数は1億尾程度と推定されましたが、翌年、アユの稚魚は大挙して川に遡上してきました。逆に大量に稚魚が遡上した年には、産卵親魚が多く残って秋の降海仔魚数も増えますが、必ずしも翌年の遡上量が良いとは限らないのです。これはアユに限らず、一年生の魚類に共通することで、アユの場合、海域での生息環境（仔魚の数、水温、餌条件、汽水域の広がりなど）が大きく影響していると考えられます。

人間でも体に良いからといってある物を食べすぎると害になるように、過ぎたるは及ばざるが如しなのでしょう。宇宙空間はバランスで成り立っていると考えられます。

しかし、仔魚の降海量と翌年の遡上量との相関は認められないとはいえ、毎年一定量以上の仔魚の降海量を確保する努力は重要です。産卵場の造成では、その河川のアユの資源量と河川流量とのバランスを考えて、それらに見合った面積で行うべきです。このほか、禁止区域の設定等による産卵親魚の保護という直接的なものだけでなく、日常的な河川流量の増加や河川形状の改善などの努力を続ければ、長期的には毎年十分なレベルのアユ仔魚の降海量が実現するものと信じています。



↑ 孵化直後のアユ仔魚（体長6mm）  
秋の夜、川の中では海へ降る仔魚たちの大名行列が続いている。





## 組合からのお知らせ

平成 28 年から  
うなぎ漁が一部変更されます。

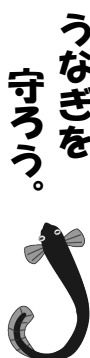
近年のシラスウナギの減少や絶滅危惧種指定を受け、うなぎ漁に禁漁期間を設けるよう県水産資源課より指導がありました。それに伴い、大井川でのウナギの漁期を短縮する予定です。

### ウナギ漁の期間

平成28年度より**3月1日～9月30日**  
(平成27年度は1月1日～12月31日です。)



6月25日 うなぎ放流 1000尾



### 平成 27 年度 通常総代会

- <日時> 平成 27 年 3 月 21 日 (土) 午後 1 時～  
 <会場> 島田市プラザおおるり 3F 多目的室  
 <議案> 1. 平成 26 年度事業及び収支決算報告  
 2. 平成 27 年度事業計画及び総合収支計画  
 3. うなぎ漁について  
 4. その他

### 漁業日数の報告をお願いします。

本年も日数を確認します。今号に同封した日誌にご記入の上、各地区の回収方法に従ってご報告ください。

#### <提出方法>

役員、総代 …平成 26 年度 漁業日誌の記入  
組合員 …日数の聴取(組合員名簿に記入)

<最終期日> 1月15日(木)

- ・高年齢割引の廃止により組合員に加入しそうなお知り合いの方には、**4月末日**までにご案内をお願いします。来年は新しい組合員証(H27～H28)になります。



### 主な業務 (H26.5月～H26.12月)

- 5 / 2 1 第7回放流(本流、人工ふ化 300kg)
- ” 玉石還元作業(高熊地先、トラック 72台分)
- 2 6 関係会社へ挨拶まわり、警察署へ取締協力依頼
- 2 7 伊久美川看板設置作業
- 2 8 第8回放流(伊久美川、成魚 300kg)
- ” 伊久美小児童による体験放流
- 2 9 解禁前監視員研修
- 6 / 1 大井川鮎解禁
- ” 川口地先違法漁業役員監視開始(土・日)
- 6 大井川花火大会打合せ
- 1 0 伊久美川鮎解禁
- 1 5 第3回釣り教室(友釣り 17名、餌釣り 12名)
- 2 5 うなぎ放流(30kg、1,000尾)
- 2 9 県あゆ友釣り競技選手権大会(気田川)
- 7 / 6 FM島田「ラジオスプーン」に出演
- 1 9 地区及び関係会社対抗競技大会
- 2 5 花火大会立会い
- 2 6 大井川ボート下り(本流)
- 3 0 県水産資源課から説明・うなぎ漁について
- 8 / 2 国交省による合同河川パトロール
- 5 あまご放流 6,000尾
- 6 花火大会立会い
- 1 3 夏季休業(～16日)
- 2 2 大井川川まつり(プラザおおるり)
- 2 4 大井川大花火大会
- 2 6 砺波市漁協が視察に訪れる
- 9 / 1 投網、追だも漁解禁及び河川監視
- 4 大井川漁場管理運営協議会
- ” 大井川用水の説明
- 9 工事立会い(赤松、神座)
- 1 7 工事立会い(横井～はばたき橋)
- 1 0 / 8 標示旗撤去作業(鍋島～JR)
- 1 7 大井川用水管理委員会、関東農政局へ魚道改善の要望書を提出
- 1 1 / 4 工事立会い(鍋島、川口)
- 7 野村証券から説明を受ける
- 1 9 東遠工業用水道企業団から説明
- ” 大井川広域水道企業団から説明
- 2 7 漁協通信第19号発行
- 1 2 / 2 県内水面組合長会議
- 1 1 あゆ発眼卵胞流(谷口橋上流、300万流)
- 1 6 第4回理事会
- 2 2 県内水面臨時総会

#### <年末年始の営業について>

12月27日(土)～1月4日(日)の期間、休業いたします。(1月5日より通常営業)



#### 編集後記

今年初めて鮎の産卵を目にし、鮎シーズンの終わりと新たな始まりを感じました。

よく聞かれるのが、漁協はオフシーズン何をしてるの? 鮎が川にいらなくても、河川工事の調整や決算・事業計画の設定、総代会や組合員証・遊漁証の準備などやることは山積みです。そんな時、思い描くのは来シーズンの豊漁。この想いが現実になりますよう心より祈念しながら、豊かな川づくりをめざし役職員一同奮起して参りたいと思います。(松浦)